

(添付書類3-2) 学校の森の取組み内容についてのアンケート回答用紙)

1、定期的に活用している森の有無

有り、無し

2、1が有りの場合の森の所在地

1) 学校敷地内/隣接地、2) 徒歩30分以内、

3) 徒歩圏外

(自転車30分以内、車で10分以内、車で30分以内、車で30分超)

3、権利関係

1) 学校所有

2) 分収造林契約(契約期間:)

3) 悠々の森協定を締結して国有林を活用

4) 県/市町村/財産区有林を活用(活用の根拠契約有り/無し/不明)

5) 私有林を活用(森林整備義務を伴う契約締結、その他、不明)

6) 公共の施設を使用(具体的には、)

7) 不明

8) その他()

4、取組期間

1) 震災前から(開始時期 西暦 年)

2) 震災後から(開始時期 西暦 年)

5、授業時間か否か

1) 授業時間(通常の授業の中での校外学習)

2) 授業時間以外(休み時間、放課後、休日)

【以下授業で活用している学校への質問】

6-1、授業科目(重複あり)

総合学習、生活、理科、社会、国語、道徳、図工、
その他()

7-1、各学年の年間授業時間数

1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	合計
5	5	15	15	15	15	70

8-1、実施する季節（重複あり）

- 1) 春、夏、秋、冬
- 2) 学年による（ ）
- 3) 年一回、年複数回

9-1、授業で森を活用する視点について

- 1) 知識ではなく体験で初めて得られることに意義
具体的には、（五感トレーニング、天然林と人工林の違い、沢体験等）
- 2) 総合学習のテーマとして森の活用が相応しいと判断
（森とともに生きる村のふるさと元気学習として充実させる）
- 3) 総合学習以外にも学習効果が得られる科目がある
（国語科 森林体験をもとに表現発信交流のための文章表現を高める）
- 4) その他（社会科 森林学習で間伐見学及び体験 他）

10-1、実施プログラムの内容／視点

- 1) 震災を受けて防災・減災の視点を含めている、いない
- 2) 実施プログラムの計画書等がある、ない
ある場合はコピーを同封して下さい。

【以下授業外で活用している学校への質問】

6-2、授業での活用を行っていない理由

- 1) 森での活動を授業に取り込む必要を特段感じていない、
- 2) 森での活動を授業に取り込みたいが現時点では障害がある
- 3) その他（ ）

7-2、6-2で2)と回答した学校へ 授業で活用する上での障害について

- 1) 各教科で習得すべき単元数が増加し、余裕が無い
- 2) 総合学習に相応しいテーマが森の活用以外に別にある
- 3) 森はあるが整備されていないので利用できない
- 4) 先生だけでは指導ができず、外部の指導者もいない
- 5) 森の整備にはお金がかかるので、継続して活用することが困難
- 6) その他 ()

【以下全ての学校への質問】

11、指導者(重複あり)

- 1) 教師のみ
- 2) NPO等の学外団体
- 3) 教師と学外団体の協同
- 4) その他 ()

12、学校以外の運営指導協力者がおられる場合

具体的には (教育委員会 役場関係部署 村のものづくりに携わる方々)

13、年間運営経費 (数年に一度の森林整備費用は除く)

- 1) なし
- 2) 1万円未満
- 3) 1万円以上
- 4) 3万円以上
- 5) 5万円以上
- 6) 10万円以上 (具体的には、) 万円)

14、運営経費の支出先

- 1) 指導者謝礼
- 2) 歩道刈り払い等の毎年発生する森林整備の外注費用
- 3) 樹名板等の林内設置物の費用
- 4) 児童/生徒の森までの往復交通費
- 5) その他 (印刷代 通信費 材料代)

15、運営経費の捻出

- 1) 学校運営費で賄う
- 2) 義援金からの補助と児童の家庭から集金
- 3) P T Aの寄付
- 4) 市の予算
- 5) その他 (村の予算)

16、数年に一度の大規模な森林整備費用

- 1) 発生する、発生しない
各々の理由 ()
- 2) 発生する場合の金額 (万円)
- 3) その資金捻出 (具体的には、)

17、必要な道具(重複あり)

- 1) なし
- 2) 森林整備に使う道具
- 3) 軍手
- 4) 長靴
- 5) ノコギリ、鎌
- 6) 木工関係の道具
- 7) 観察板・虫取り網・飼育ケース
- 8) その他 ()

18、17の道具の調達

- 1) 学校で購入
- 2) 外部からの寄付
- 3) 各自家庭から持参
- 4) N P Oからの借り入れ
- 5) その他 ()

19、昨年度の活動と今年度の活動比較

1) 昨年度より進化

具体的には

(校内研修の中心課題として取り組む。森林等の体験学習をもとに、「森とともに生きる村のふるさと元気学習」として、西栗倉小学校の特色ある教育に位置づける研究を行っている。また、学びの側面から、子どもの学びを活用する力を育てる場として「ふるさと元気学習」のあり方をさぐっている。

以下にまとめる

森とともに生きる村の「ふるさと元気学習」

1 森での体験学習は、なくてはならない重要な要素

2 しかしそこから広がる2つの視点で学習を展開する必要がある

○ふるさとを元気にするには何ができるか

森つながりの発展的な体験活動

○子どもの学びをどう育てるか

「育てたい学びの力」に基づき学び合う力を育てる授業

これらにきちんと答えることで、地域の特性をいかした価値ある学習が可能になる。))

2) 昨年度より後退

具体的には ()

3) 昨年度と変わらない

4) 今年度から開始

5) 昨年度のことは判らない

6) その他 ()

20、来年度の活動についての展望

1) 今年度より進化させたい

具体的には (学びを活用する力を育てる場として、「ふるさと元気学習」の充実に努める)

2) 今年度より後退する危惧あり

具体的には ()

- 3) 異動もあり来年度のことは判らない
- 4) その他 ()

21、活動継続に向けた対応

- 1) 特に必要性を感じない
- 2) 必要性は感じるが対応は出来ていない
- 3) 一定対応している

↳ 具体的には、

- ① PTA を応援団に育成／学校評価での実績づくり
- ② 転入してきた先生を活動の推進役に育成
- ③ 学外の運営協力者／団体を学校経営にも参画させている
- ④ 教育委員会を応援団に育成／学校評価での実績づくり
- ⑤ 森の活用校で連携して活動の成果を普遍的なものにする
- ⑥ その他 (教育委員会と協同して取り組むことができている)

22、活動中止の危機の有無

有り 、 無し

ありの場合以下のどの背景か？

- 1) 所有者との関係で森の使用が出来なくなる
- 2) 森の整備の担い手がいなくなって藪に戻ってしまう
- 3) 森の活動で事故が起きて安全管理面での問題を指摘される
- 4) 教室内での授業時間増加の要請／学力低下
- 5) その他 ()

23、活動中止の要因として考えられること

特に無し 、 想定できる

想定できる場合以下のどの背景か？

- 1) 校長交代
- 2) PTA 会長交代
- 3) 指導役の先生の異動

- 4) 協力団体の中断
- 5) 教育委員会の方針変更
- 6) 森の所有者との関係悪化
- 7) その他 ()

24、フィールドの地域開放

- 1) 学校だけで使用
- 2) 地域の人々が森林整備にも協力しており開放している
- 3) 現在公共施設を学校の森として活用している
- 4) 地域の防災拠点でもあり、開放している
- 5) その他 (村有林を学校が使用させてもらっている)

25、森の活用についてのPTAの関わり

- 1) 全面賛成
- 2) 具体的に森の活動について見守りでボランティア協力
- 3) 具体的に森の整備に協力
- 4) その他 ()
- 5) PTAは無関心

26、PTAに協力を得ている場合の具体記述

ふるさと元気学習を毎月の学校便り、参観日等で紹介し理解をしてもらうよう努めている。
また教育委員会からも村の広報の記事としてたびたび紹介して村民に対するPR活動につとめている。

27、重視していること(重複あり)

- 1) 木の名前を知ること森に興味を持つこと
- 2) 自然の中で伸び伸びと過ごすこと
- 3) 生態系のつながりの理解
- 4) 自然は脅威にもなれば人間を守ってくれることの理解

- 5) 森の中で仲間と助け合うこと
- 6) 震災後の子どもたちの心のケア
- 7) 防災や減災意識の高揚
- 8) その他 ()

28、困っていること(重複あり)

- 1) なし
- 2) フィールドが遠い
- 3) フィールドが整備されていない
- 4) 登る際の傾斜が急である
- 5) 指導者の協力が継続できるかどうか
- 6) その他 ()

29、自由記入欄

特になし